

平成30年度 学校経営計画

1 学校教育目標

創校の志「学びたきもの集う」と校訓「慎重敢為」を継承し、以下の教育目標の下、人類の発展的未来に貢献する人間の育成をめざす。

- 高邁な理想に向かって、自ら考え行動できる優れた知性を育成する。
- 情操豊かにして自他敬愛の心を持ち、品格ある徳性を陶冶する。
- 平和な世界や国家・郷土の形成者として、たくましい体力・気力を養成する。

2 学校の特徴

本校は明治18年に創立された富山県中学校を前身とし、創立133周年を迎えた。創校の志「学びたきもの集う」と、「慎重自ら持し、敢為事に当たる」という校訓を今日に継承し、心身ともに健全で、国際社会の発展に寄与する人間の育成を教育目標として掲げている。

学級編制は、全学年普通科5クラス、理数科学科・人文社会科学科(総称は探究科学科)併せて2クラスとなっている。生徒総数は男子383名、女子454名、計837名で女子が多い。入学してくる生徒のほぼ全員が4年制大学進学を志している。また97%の生徒が部活動に加入し、部活動と学習の両立を図りつつ積極的に活動している。

平成14年度から平成18年度(17年度以降は継続事業)まで、文部科学省の研究開発事業である「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定をうけた。

平成23年度からは理数科学科、人文社会科学科が新設され、科学的思考力の育成を重視した教育活動を実践している。

平成29年度から「ICT教育推進事業」実施校に、今年度から「新たな学び創造事業」の拠点校に指定されている。

3 学校の現状と課題

何事にも真面目に取り組むが、自主性、主体性にやや欠ける生徒が増えている中、特に学習面、進路面において、自らの能力・適性等を正しく評価し、自ら設定した高い目標に向け、意欲的に取り組むことができるようにすることが求められている。この観点から、本校では「一人ひとりの生徒が自ら学び、考え行動する力を培い、科学的思考力や探究力など、より確かな学力とより高い目標に向け、主体的に進路選択する能力や態度を身につけるようにする」を学校課題として掲げ、教育諸活動を推進している。

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	A 学習活動 教科指導計画 重点1 ①②	目標	教科の学習における生徒の実態を的確に捉え、自主性を喚起しながら、成長段階に対応した確実な学力を身につけさせ、一人ひとりの優れた能力・適性の伸長をはかる。
		計画	○学年と教科が連携し、平日及び休日の学習量・学習内容の精選と充実を図る。
			○予習・授業・復習の学習サイクルを機軸とした主体的な学習習慣の定着を図る。
			○学習生活実態調査等による個々の生徒の実態を把握・分析し、教師間の共有を図る。
		○面接等をとおして、望ましい学習習慣が定着するよう指導・改善を促す。	
2	B 学校生活 生徒指導計画 重点2 ⑤	目標	生徒が主体的に判断し積極的に行動できる力を養うとともに、社会性・道徳性を高める。
		計画	○日常のさまざまな場面で生徒との触れ合いを通じて、観察と指導の機会を積極的に持つとともに、計画的に個人面接を行なう。
			○健康に留意し、規則正しい生活を送る習慣を身につけさせ、遅刻、早退、欠席を減らす。
			○担任・学年や教育支援部や保健厚生部と連携しながら、個に応じた指導を進める。
			○交通ルール・交通マナーが遵守されるように、特に自転車の安全運転について重点的に指導し、事故の防止を徹底する。
	保健管理指導計画 重点2 ⑧	目標	生徒一人ひとりが健康・体力の保持増進に努め、自主的かつ積極的に健康管理ができるよう、意識の向上と適切な習慣・態度を育成する。
		計画	○健康の保持増進を図るために、日頃の健康管理と定期的な受診の重要性について啓蒙を図る。
			○教科指導やHR等をとおして、規則正しい生活・食事・睡眠が健康生活の基盤であることを理解させ、実践させる。
教育支援計画 重点2 ⑩		目標	生徒の自己理解を促し、人間のあり方や対人関係の心構えに関する基本的な考え方を身につけさせる。
	計画	○教員・保護者が連携して生徒の現状把握に努め、心身に問題を抱える生徒を早期に発見し、支援する。 ○生徒対象の教育支援講演会あるいはワークショップを計画的に実施し、人間関係のトラブルやストレスに自ら対処できるスキルを身につけるよう支援する。	
3	C 進路支援 進路指導計画 重点3 ⑥	目標	生徒一人ひとりが望ましい人生設計ができるよう、個性・学力を伸ばし、主体的に進路を選択・決定する能力を育成する。
		計画	○キャリア講座・進路講演会の実施やホームルームでの進路学習、学年による進路面談などをとおして、早期に進路目標を確立させる。 ○系統的、計画的なキャリア教育の一層の充実をはかり、生徒一人ひとりの進路意識を明確にすることで、各自の進路志望の実現を援助する。

4	D 特別活動 <i>特別活動指導計画</i> 重点4 ④ <i>学校図書館指導計画</i> 重点4 ⑦	目標	教科指導と特別活動との連携を密にし、普段の教育活動の成果が、総合的・創造的に発揮されるように努める。また、生徒の自主的な活動を促し、協力と責任遂行の重要性を認識させるとともに、豊かで充実した内容となるよう工夫を図る。
		計画	○学校行事の内容の充実を図り、生徒一人ひとりが満足感と達成感を得ることができるよう工夫する。 ○生徒が積極的に企画・運営し、意欲的に参加するよう、自主的な活動の育成を図る。
		目標	学習活動に役立つ豊富な資料を整備するとともに、読書意欲を高め、生徒一人ひとりの人間形成に資する良好な読書習慣を身につけさせる。
		計画	○教養講座、読書会、広報活動などの生徒図書委員会の諸活動が主体的・創造的に運営されるよう援助し、その活動を核として一般生徒の読書に対する興味関心を高め、図書館利用を促進する。 ○図書館運営委員会の協議に基づき、各学年・各教科との連携をはかりながら、購入図書の精選と充実にも努め、各教科等の発展的学習での活用に役立つようにする。
5	E その他 <i>科学教育の推進</i> 重点5②③④ <i>開かれた学校づくり</i> 重点2 ⑤ 重点3 ⑥ <i>学年経営計画</i> 重点1 ② 重点2 ⑤ 重点3 ⑥	目標	科学的思考力や探究力などを身につけさせる。
		計画	○各教科や総合的な学習の時間において、課題解決的な学習等を計画的に取り入れ、科学的な思考力や探究力、課題解決能力の育成をはかる。 ○課題解決的な学習に意欲的に取り組むことができるよう工夫する。
		目標	むつみ会(PTA)主催の委員会や講演会の内容を充実し、保護者と学校との連携を図り、保護者の本校に対する理解を深める。
		計画	○むつみ会主催の講演会を計画的に実施し、その内容の充実と保護者への周知徹底を図る。 ○むつみ会委員会(PTA)の出席率を高める工夫を、PTA役員と協議し推進する。
		目標	安定した生活習慣の確立をめざし、高校生活を充実したものとする。生徒一人ひとりが自分に適したより高い進路目標を設定し、その達成に向けて意欲的に学習を進めるよう支援・指導する。
		計画	○予習・授業・復習の学習習慣の確立に努める。 ○安易な欠席・遅刻をしないよう指導する。 ○自己の将来像の実現に向けた早期の取り組みを促す。

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成30年度 富山高等学校アクションプラン -1-

重点項目	学習活動	
重点課題	家庭学習の充実(生徒)と教師の授業力向上	
現 状	<p>(1)本校では年間を通じた家庭学習時間を1日平均4時間以上(1週間で28時間以上)確保するよう指導しているが、目標を達成している生徒がいる一方で平均2時間を下回る生徒も見受けられる。また、目標時間を確保しながらもなかなか成績の向上に結びつかない生徒も見受けられる。</p> <p>(2)生徒の実態は年々変化しており、それと共にこれまでの講義形式の授業だけでは、生徒の主体性を十分に引き出すのが難しくなっている。教師は「学び合い」・ICTの活用など、授業形態に工夫を凝らした、魅力ある授業を展開し、生徒の主体性の引き出しや学力のより一層の伸長を模索する必要がある。</p>	
達成目標	<p>〔家庭学習の充実〕</p> <p>①1・2年生の学習時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日平均2時間未満の生徒の割合が10%未満 <p>②効率的な学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的で効率的な学習ができるようになり、学習の総量が増える生徒の割合 60%以上。 	<p>〔授業力向上〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」を行った授業の割合 80%以上。 ・授業満足度(分かりやすい説明、板書等) 80%以上。 ・互見授業(2回以上)を実施する先生の割合 90%以上。
方 策	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全体指導の強化に加え、担任による面接等を通し学習時間の確保に問題をかかえる生徒を重点的に指導する。 2. 時間の使い方について日頃から指導し、学習効率の向上に取り組ませるなど、学習の質を上げようとする意識を持たせる。 3. ICTの授業への活用については、その長所・短所を把握し、さらに効果的な利用法について研究を進める。 4. 各教科・科目において「学び合い」・ICTを活用した授業等を計画的に設定し、生徒の主体性を引き出す。 5. 進路指導部と連携し、課題の質および量の適正化をはかる。また、学習計画が正しくできているかを担任および教科面接を通じて指導する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 富山高等学校アクションプラン -3-	
重点項目	進路支援
重点課題	一人ひとりの生徒に応じた適切な進路指導の実践
現 状	1 具体的な進路目標の決定が遅く、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びついていない生徒が少なくない。 2 個々の生徒に応じた進路支援を行うよう努めているが、必ずしも生徒自らが自己の適性や能力を真剣に考えて進路目標を定めているとは言えず、自己を過大あるいは過小に評価したまま漠然とした進路目標の設定に終始してしまう生徒も見受けられる。
達成目標	①[安定した家庭学習時間の確保] 生活実態調査などを通じて調査し、平日3時間以上・休日6時間以上を目安とし、1週間あたり28時間以上の家庭学習を日常的に実施している生徒の割合が70%以上
	②[高い進路目標の設定] 2年2月時点での難関10大学と医学部医学科を志望者している生徒の割合が60%以上
方 策	1. 同じ進路目標を持つ(特に最難関大学志望)生徒の集団を、補講や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、互いに切磋琢磨できる環境を各学年のさまざまな場面で育成するよう努める。 2. 適切な進路指導を行うため、学年集会やしおり・講演会を通して生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。 3. 社会人や大学生を招いてのキャリア講座・進路講演等を実施し、目標に向けた自主的・意欲的な学習に結びつくよう指導する。 4. スケジュール帳を積極的に活用させ、進路目標の設定や学習習慣の向上に役立てさせる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 富山高等学校アクションプラン-4-	
重点項目	特別活動の充実
重点課題	学校行事への意欲的な取り組みと部活動からの切り替え
現 状	学校行事は生徒の主體的活動を促し、心身の調和のとれた発達を図り、学校の活力醸成のために重要なものである。よって内容が豊かで充実していることが大切である。本校では生徒と教職員が協力して諸行事を運営しているが、積極的に参加している生徒がいる反面、やや消極的で自主性・創造性に欠けた生徒も見受けられる。年間の行事の意義や各行事の目的・方法を確認するとともに、生徒の意識調査を通じて今後の学校行事への意欲的な取り組みにつなげていきたい。また、9割以上の生徒が部活動に参加していることを踏まえ、部活動がより良い学校生活づくりや意欲的な進路選択に役立つよう支援していきたい。
達成目標	1.本校の二大学校行事(体育大会、文化活動発表会)に自ら協力できたと感じる生徒が80%以上。 充実していたと感じる生徒が85%以上。 2.部活動の引退後、1ヶ月以内に進路選択に切り替えられる生徒が90%以上。
方 策	1.年間における特活行事の時期・目的・内容等の検討を行う。 2.主な学校行事(体育大会、文化活動発表会、)に対して以下の項目を中心にアンケートを実施する。①準備や運営に自ら協力できたか。②この行事は充実していたか。③その他意見 3.部活動の引退後、早期に進路の決定に向けて意欲的に取り組むことができたかアンケートを取り、指導に役立てる。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成30年度 富山高等学校アクションプラン-5-

重点項目	科学教育の推進	
重点課題	科学的思考力の習得	
現 状	めまぐるしく変化する現代においては「知識が豊富であること」だけでは対応できなくなっている。「知識」を「知恵」に変えて生きていくためには、「自ら課題を設定し、論理的に思考し、問題を解決する力」が必要となる。それらを育む効果的な教育課程が求められている。	
達成目標	①[課題発見力・論理的思考力の育成]	②[意欲的学習態度の育成]
	※「GPSアカデミック(2月実施)」 上記検査を実施し、「批判的」「協働的」「創造的」思考力の育成・確認を行う。各項目の判定「A以上」の生徒(探究科学科)の割合 50%以上	※「意識(興味・関心・意欲)調査」 「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習に意欲的に取り組んだ探究科学科の生徒の割合 80%以上
方 策	<p>1. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」の指導内容・指導方法を十分研究し、その教育課程について授業担当者の共通理解と密接な連携のもとに実施する。</p> <p>2. 単元ごとの自己評価に基づき、生徒自らより高い目標を設定し主体的に学習に取り組むことで、高い学力を形成できるよう指導する。また生徒の将来に必要な力を育むための教育課程であることを自覚させ、意欲的に取り組ませる。</p> <p>3. 巡検研修を「探究基礎Ⅰ」と、東京方面研修を「探究基礎Ⅱ」と効果的に連携させ、探究活動をより深められるよう実施する。</p> <p>4. 「探究力」や「論理的思考力」を育成する学習を、1・2年普通科「総合的学習の時間」の指導にも取り入れる。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)